

## 平成 29 年度第 4 回 函館市高齢者計画策定推進委員会 会議概要

### ■ 日 時

平成 29 年 10 月 30 日（月） 18 時 30 分～20 時 00 分

### ■ 場 所

市役所本庁舎 8 階第 2 会議室

### ■ 議 事

- (1) 高齢者数の推計について
- (2) 高齢福祉施策について

### ■ 配付資料

- ・ 会議次第
- ・ 高齢者数の推計（資料 1）
- ・ 函館市の現状・分析，課題，施策の方針（資料 2）
- ・ 第 8 次函館市高齢者保健福祉計画 第 7 期函館市介護保険事業計画（平成 30 年度～平成 32 年度）の構成（案）（資料 3）
- ・ 計画の基本的な考え方（施策の体系）（資料 4）
- ・ 施策体系と個別事業（資料 5）
- ・ 施策の展開（資料 6）

### ■ 出席委員（10 名）

朝倉委員，天羽委員，池田委員，岩井委員，奥野委員，川口委員，木村委員，佐々木委員，所委員，中村委員

### ■ 欠席委員（5 名）

小川委員，恩村委員，熊川委員，能川委員，八幡委員

### ■ 傍 聴

1 名

### ■ 報道機関

1 社（函館新聞社）

### ■ 事務局職員

保健福祉部 介護保険課 深草課長，山中主査，江良主任  
保健福祉部 高齢福祉課 佐藤課長，笹原主査，相澤主査，辻主査，  
岩島主査，中村主査，二木主任

## ■ 会議要旨

### 1 開 会

### 2 議 事

#### (1) 高齢者数の推計について

事務局：山中介護保険課主査

---

(資料1「高齢者数の推計」に基づき説明)

(質問なし)

#### (2) 高齢福祉施策について

事務局：笹原高齢福祉課主査

---

(資料2「函館市の現状・分析，課題，施策の方針」に基づき説明)

池田会長

---

前回意見が出た点が反映された形になっている。佐々木委員いかがか。

佐々木委員

---

非常にわかりやすい資料になっている。ありがとうございました。

この資料の個別施策の1番上に「地域包括支援センターの機能強化」が挙がってきていて、センター大変だなと、センター自体が力をつけていかないと対応できないなど感じている。

また、「我が事・丸ごと」をどう進めていくのかがやはり大変だなと感じている。これも引き続きの議論になるかと思う。

池田会長

---

地域包括支援センターは今でもハードだと聞いているので大変だろうと思う。もうちょっと考えていかないといけない面もあるかと思う。

岩井委員いかがか。

岩井委員

---

資料1の高齢者数の推計も含めて思ったのが、ピークは平成37年なんだと。高齢者数自体は32年をピークに減少に転じるが、高齢化率を見ると37年が一番高く、75歳以上の高齢者数は37年まで増加が予測される。まさしく8年後に向けてどういうふうにシステムを強化していくのか。そして資料2にあったように、介護人材の確保をどうやっていくのか。ピークが37年だとすると、急に対応ができるわけではないので、差し迫っている状況かと思う。決して慌てる必要はないが、着実にやっていかないとと思った。

池田会長

---

他に質問はあるか。

奥野副会長

---

函館市の現状のところで、「高齢化率、高齢者のみの世帯、要介護・要支援者の認定率」について、旭川市などの道内同規模の状況を把握していたら教えていただきたい。

事務局：笹原高齢福祉課主査

---

旭川市の高齢化率については、函館市を下回っていると記憶している。当市は道内の同規模他都市よりも高齢化が進んでいる状況にある。

池田会長

---

問題は少子化であり、少子化を何とかしないと高齢化率は何ともできない。ぜひ交流人口よりも定住人口を何とかしてもらえればと思う。

天羽委員いかがか。

天羽委員

---

質問ではなく意見だが。高齢者が要介護の状態になるのに、とても注目されているものとして「フレイルの予防」があり、最近さらに言われてきている。

資料2の個別施策に「高齢期の健康づくり・疾病予防の推進」とあるが、なんとなく漠然とした印象を受けるので、フレイルの予防といった、もう少し焦点を絞った具体策の展開ができるような表現が必要かと思った。

池田会長

---

川口委員いかがか。

川口委員

---

個別施策の「生涯学習・スポーツ活動の推進」だが、私は榎法華支所の方で地域審議会に参加しているが、教育事務所の生涯学習・スポーツ活動の推進は、毎年同じパターンで、参加率も非常に悪くても同じことを進めている。本当に社会教育の充実・強化をしていかないと、いい計画も実行できないことになるかを感じる。

それと大きな話になるが、世の中の流れが段々憲法改正とかになってくると、予算が軍事費にとられて福祉の方に来なくなる懸念がある。そういうことも合わせて考えながら、時代が大きく変わっていくということも念頭に入れていった方がよいかと思う。

池田会長

---

ありがとうございました。

所委員何か意見はあるか。

所委員

---

今回の資料は、前回と比較して見やすくなっていると感じた。

この資料の個別施策の具体的なものが、これから色々な案として出てくると思うが、わかりやすく、焦点を絞って施策を進めていければと思う。

池田会長

---

確かにそのとおりである。個別施策の具体化が大切になってくる。

事務局：笹原高齢福祉課主査

---

(以下の資料に基づき説明)

- ・資料3 第8次函館市高齢者保健福祉計画 第7期函館市介護保険事業計画（平成30年度～平成32年度）の構成（案）
- ・資料4 計画の基本的な考え方（施策の体系）
- ・資料5 施策体系と個別事業
- ・資料6 施策の展開

池田会長

---

資料3についていかがか。

(質問なし)

現計画より章をコンパクトにまとめたということで、こういう流れでよいかと思う。

次に資料4について何か質問あるか。

川口委員

---

施策目標の「切れ目のない在宅医療・介護の提供体制の構築」の「切れ目のない」というのは安倍首相がよく使う言葉で、市役所では使うような言葉ではないと思うが。

事務局：佐藤高齢福祉課長

---

厚生労働省でも使う言葉ということで、この辺はお許しいただきたい。

池田会長

---

他にあるか。

事務局：佐藤高齢福祉課長

---

個別施策については、今後また見直す中で、項目が増えたり減ったりする可能性があることをご了解願いたい。

池田会長

---

資料5, 6について何か質問あるか。

佐々木委員いかがか。

## 佐々木委員

---

前回の「我が事・丸ごと」の丸ごとの相談窓口について、会議後に国から出た最終報告では、例として地域包括支援センターが窓口をやるとしたらということが出ていた。そうなった時に、市役所内部できちんと連携をとれるような形を作っていないと本当の丸ごとの相談、ワンストップサービスはできないなと感じた。

平成18年に包括支援センターができた時に、介護高齢福祉課とは準備から連携がとれていたが、同じ福祉でも他部署の障がい福祉や生活保護の部署との関係を作るのが難しかった。この10年で変わった部分はすごくあって、障がい福祉とも連携がとりやすくなったり、生活保護の制度も教えてもらう機会が増えたりもしたが、もっと市役所内部の横の連携がないと一元的に支えるのは難しい。私達包括支援センターは委託だが、時には市役所内の何課と何課の間に入ることがあって、もっと内部で調整できないものかと感じたこともあった。

難しい所だけれど目指さなければならぬところだと思う。市役所内部の一体感、私達10包括支援センターも一体感を持たないとできないなと考える。

## 池田会長

---

縦割り行政をなくすということだ。

## 川口委員

---

市役所の一番の欠点はセクショナリズムである。横の連携がないというのが今までの欠点である。人口減が進む中で、従来のようにセクションの壁を保っていてはやりきれない問題だと思う。例えば保健福祉部と市民部だが、町会連合会とのつながりを密にしていかなければならない。総合事業はむしろC型よりB型の方が適している感じている。

横のつながりをきちんとしていかなければ成しえない事業だなと思う。

## 池田会長

---

ありがとうございます。

資料6の5ページに「地域ケア会議の推進」が出ているが、今こういう色々な会議があって、その会議が集約されてこういう形になると。

## 事務局：佐藤高齢福祉課長

---

5ページの地域ケア会議だが、先に申し上げるべきだったが、庁内でもまだ未整理の状況である。私共ではこう考えているということでこのような図を載せている。地域ケア会議が地域包括ケアシステムのエンジンになるようなことで想定をしている。

先日、コミュニティスクールの講演をきいたが、コミュニティスクールも学校版の地域ケア会議という感じで、地域の方々、民生委員の方々が学校の運営にも出ていかなければだめな時代なんだと。川口委員はじめ地域の方々にはこれからご苦労かけるが、まさしく色々な連携をとっていかないとやっ

ていけない時代なんだと感じた。

そして先ほど話のあったセクト主義について、私も嫌いだが、この福祉の分野はかなり入りこまないと制度がすごい複雑で理解が難しい。しかし川口委員がおっしゃるように、横の連携も必要で、私も障がい福祉のこともある程度知っていないと仕事にならないという感じにこれからはならざるを得ない。なんとかしていきたいと思っている。

---

#### 池田会長

他にあるか。中村委員いかがか。

---

#### 中村委員

私は一般公募であり、高齢者福祉の分野では、この中で一番素人かと思う。去年から葬儀屋を始めたが、孤独死の問題に関心がある。警察署に亡くなった方をお迎えに行くことも結構あるが、孤独死の問題は、色々な事業が豊かになっていくと、解消できるのかなと思って見ている。

また、日常的に市内を動き回っていて、心配なのが高齢者の運転である。日中運転していると、10台に8台位が高齢者のドライバーである。移動手段としてバスや電車があるが、なかなか難しいところである。

日頃安心メールを受信して行方不明の高齢者の情報などを見ていると、沢山課題があるんだと思い知らされている。

仕事柄高齢者の方々と触れ合う機会も多いため、そういう観点からお役に立てればと思い参加している。

---

#### 池田会長

地域包括支援センターの関係で色々な事を考えていけば、日常生活圏域は10のままでいいのだろうか。ここの見直しも必要ではないかと感じるが。

佐々木委員いかがか。

---

#### 佐々木委員

6圏域の時代を経験しているので、今の10圏域は狭まって入りやすい状況だと感じている。

函館市では1圏域あたり保健師、社会福祉士、主任ケアマネジャー5～6人でやっているが、ある自治体では函館市の半分位の規模でやっていて、そうなると職員も半数になり3人しかいなくなる。3人のうち1人が退職などで抜けるとその穴を埋めるのがすごく大変になる。

今は10年前より業務の幅が広がって多岐に渡っているので、新しい職員が一通り業務を覚えるのにすごく時間を要するようになっていて本当に厳しい。

そういう状況を考えると、圏域を狭めればいいというものでもなく、現在の高齢者人口約1万人に1か所の圏域の数で丁度いいと実感している。

---

#### 岩井委員

私は包括支援センター運営協議会にも関わっているが、10圏域になって、

前より地域が狭まって良くなっているし、佐々木委員の話にあったように1圏域で色々な職種の人を配置しないといけないので、今の函館では丁度いいとは思いますが、実際この計画を見て、これから5～6年でこれだけのことをやると考えると、今のマンパワーでは相当きついなと思う。相当人員が増えないとだめではないかと思う。

池田会長

---

私も今の人数でこなしていくのは大変ではないかと思う。

佐々木委員

---

大変ありがたいと思って聞いていた。

人数の配置は、国では高齢者人口3千～6千人に3職種各1人と幅を設けた基準を定めていて、函館市は予算の関係もあるだろうが、6千人に対して各1人である。全国的にもあまり聞いたことはないが、手厚い市町村があるとすれば3千人に対して各1人を配置することもできる。そういうところで配置基準の見直しを、今後検討していただけるかと期待している。

奥野副会長

---

配置基準に随分格差があるんだと思った。

事務局：佐藤高齢福祉課長

---

実際に高齢者が3千人しかいないような町村では、3人を配置しているような所もあるかもしれない。

池田会長

---

資料6について他に質問はあるか。

20ページの軽度認知障害スクリーニングテストは、包括支援センターでできないのか。

事務局：笹原高齢福祉課主査

---

包括支援センターにはPRをしてもらっている。現在は、高齢者本人が葉書で申し込んだ後、受検証書に基づいて自ら電話をして質問に受け答えするというコールセンター方式でやっているが、今年介護予防講演会の際に、事業者がパソコンを持ち込み、対面式でやってみたら非常に人気があった。今後は対面式を機会をとらまえてやっていきたい。

朝倉委員

---

この検査について、先ほど川口委員とも話していたが、町会の方でできないのか。また、総合保健センターで65歳以上の方の健康診断を行っているが、その一環で出来るようにならないものか。

事務局：笹原高齢福祉課主査

---

担当部署と相談の上、方法論について調べてみたいと思う。

池田会長

---

他にあるか。所委員いかがか。

所委員

---

22ページのSOSネットワークシステムだが、私も安心メールを受信していて、行方不明者の情報を見ながら、車を走らせていることもあり、無事発見などの通知があるといいなと思う。

また10ページの「男性家族介護者のつどい」の参加者は何人だったのか。どのような参加者が多かったのだろうか。

事務局：辻高齢福祉課主査

---

「男性家族介護者のつどい」は6人の参加であった。参加者は奥様を介護している方や、90代の両親を介護している息子さんなどであった。今回初めてチラシを見て参加した新規の方もいたので、まだ地域の中には困っている方が潜在しているかと思う。次回は2月位を予定しており、声掛けをしてまいりたい。

事務局：笹原高齢福祉課主査

---

SOSネットワークシステムだが、注目して見てくださっていることに感謝申し上げる。警察の情報活動を支援する形で情報提供を行っており、警察から情報が届いた場合には通知を流している。

中村委員

---

「解除しました」という通知だったと思う。

事務局：佐藤高齢福祉課長

---

「解除しました」ということで情報を流しているが、私達も警察からの情報提供のため、無事に発見されたのか亡くなっていたのか、どういう状態で発見されたかまでは、わからない状況である。

池田会長

---

他にあるか。

岩井委員

---

先ほど新規事業の説明があったが、くらしのサポーター養成事業とか介護予防体操リーダーの養成とか、市民の方を巻き込んで色んなサポーターを養成するのは良いことだと思う。

私達の歯科医師会でも数年前から「ハッピーマウスサポーター養成講座」をやっていて、歯科医院に行きづらい人たちを励ましたり、口腔衛生のちょっとした知識を周りの人に広めてもらう事業をやっているが、今ちょっと問題になっているのが、その方達が年数回しか活躍する場がない状況にある。

計画でも、色々なサポーターを養成するのはすごく大事だと思うが、その方



達にどう動いてもらうかを一セットでやると、すごく効果が出るんじゃないかと思う。

事務局：笹原高齢福祉課主査

---

ありがとうございます。

池田会長

---

全ての議事が終了したので、進行を事務局にお返りする。

### 3 その他

事務局：山中介護保険課主査

---

次回の委員会については11月30日(木)18時30分から、こちらの市役所本庁舎にて予定している。委員会の開催案内については、別途また送付させていただきます。

### 4 閉会